

## 和南津花笠甚句(わなづはながさじんく)のご紹介

### <和南津地区>

新潟県長岡市の飛び地である川口地域(旧北魚沼郡川口町)にあります。

信濃川と魚野川の合流地点にある自然豊かな小さな町です。米づくりが盛んで美味しい魚沼産コシヒカリの産地となっています。

和南津地区は古くから交通の要所であり三国街道の渡し場があったところとしても知られています。現在は関越自動車道・上越新幹線・国道17号線・上越線が狭い範囲で集中・交差している非常に珍しい地区となっています。

上越新幹線では長岡と浦佐の間で一瞬トンネルを出て川を渡ります。そこが和南津です。



### <和南津花笠甚句>

旧川口町の無形文化財として昭和58年に登録、一時期は途絶えましたが中越大震災後の地域活動をきっかけで復活しました。

歴史は古く、幕末ころ信州碓氷峠付近にある踊りが伝えられ、村の神楽衆がそれを取り入れ完成させたと伝えられています。

手に花笠を持ち、たすき、はちまきで勇壮活発に踊ります。三味線、太鼓、樽、歌など全て生演奏で揃うことも大きな特長です。

### <和南津花笠甚句保存会>

和南津花笠甚句を継承していた和南美会(わなみかい)が平成19年に祭りのお囃子団体「仁和加(にわか)保存会」を元に再結成して和南津地区の伝統芸能「花笠甚句」を復活させました。当会は10代から80代まで幅広い年代で構成されており、各種イベントなどに参加しています。花笠甚句だけでなく地区に伝わる祝い歌「天神囃子」の継承もしています。

### <中越大震災>

平成16年10月に発生した中越大震災は川口地域が震源地でした。

当然ながら当地区も大きな被害もあり犠牲なられた方もおりました。住宅や農地にも大きな被害にあり避難生活や仮設住宅での生活など大変なことも多くありましたが、現在は落ち着きを取り戻しています。

今回の参加のきっかけも震災つながりでした。今井先生が東北大震災の被災地陸前高田の皆さまと引き合わせていただいたのです。それ以来交流させて頂いています。

震災がきっかけに復活した「花笠甚句」を通して皆さまに少しでも元気をお伝えできれば幸いです。



(長岡市アオーレ長岡:オール川口フェスタ2016)